

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

一番嬉しいことは、
いろいろな人の人生の節目に
立ち会えることです。

太平洋工業株式会社
竹中拓也さん



太平洋工業株式会社は、今から87年前に自動車用のバルブコアの国産化を目指して大垣に設立。現在、国内に八カ所の工場があり、そのうち五つは岐阜県内にあります。また、海外にも六カ国で12の拠点を構えています。社員数は、国内で千七百人を超え、海外も合わせて三千五百人ほどです。そして、製造だけでなく、研究、開発からデザインも行っている会社です。

太平洋工業で人事部長として活躍している池田町在任の竹中拓也さんに仕事内容や働く中で大切にしていることなどを伺いました。

Q：貴社の魅力を三つに絞るとしたら、どんなところだと思いますか？

一つ目は高い技術力だと思います。例えば、タイヤバルブの国内シェアは100%です。それは、太平洋工業が無くなってしまおうと日本中の車が走れなくなってしまうことです。我が社が岐阜県にありながら世界で活躍できるのは、この高い技術力があるからです。

二つ目は人に優しいところだと思います。社員を対象にしたイベントや人事の仕事をしている人と絡むことが多くあります。そうした時に我が社は「人に優しいな」と感じられるような判断をすることが多いです。

三つ目は地域貢献をしているところだと思います。国内でも海外でも、進出した地域の人と共栄共存をしていくという考え方があります。そのため、拠点を構えている国の人件費が高くなっても、その国で物を作り続けていきます。我が社は、「グローバル」と「ローカル」を合わせたグローバル企業なのです。



Q：竹中さんが太平洋工業に入社を決めた理由は何ですか？

一言で言うと、一番自分のことを必要としてくれている会社だと感じたからです。

僕が就職活動をしていたのは、バブル時代で、会社を受けに行けば誰でも採用でした。そのため、僕がこの会社に就職しなくてもここは困らないだろうと思いました。そんな中、太平洋工業の人事役員をやっている人に、初めて自分の話を聞いてもらえました。その時に言われたのが、「活躍できるかは分からないが、活躍する場は与えてやる。」でした。技術力が良いからという理由で入社を決めた訳ではなく、自分のことをある程度理解した上で言ってくれたことが嬉しくて決めました。

自分がそこで活躍できるか、自分がその会社に必要とされているかということが大事だと思います。

Q：最後に、高校生や中学生にメッセージをお願いします。

『よく遊び、よく学べ』ということですね。遊ぶばかりも、勉強してばかりも絶対ダメです。遊びの中で、コミュニケーション力を得ることができるからです。また、勉強もしないと絶対後悔します。今だけ勉強するかによって、このあと的人生は大きく変わってくると思います。勉強は大事だし、友達と遊ぶことも部活動を一生懸命やることも大事です。だから、よく遊び、よく学んでほしいです。

あと、中学生のうちに、修羅場を経験した方がいいね。絶対逃げられないような状態の中で最後まで逃げずにやりきる、そうした経験を中学生のうちにもてたかどうか、その差はものすごく大きいと思います。

火中の栗は拾いに行った方が良くと思います。

Q：人事にはどんな仕事がありますか？

大きく分けると三つに分かれます。

一つ目は労務関係の仕事です。労務というのは、昇進、昇格、給料計算などです。また、就業規則を作ったりもします。

二つ目は採用です。毎年たくさんの人が応募してくてくれます。その中から、誰を採用するのか試験を仕切る仕事です。

三つ目は教育です。社員の方々に対してどういう教育をしていくと良いのか、年代などに分けてやっています。

Q：仕事をやる中で一番大切にしていることは何ですか？

前と同じやり方をしないということ。今年も去年と同じでいいやということになると、同じことの繰り返しになり、結局成長は感じられないと思います。だから、去年の結果を生かして、今までと違うやり方でより良くしていくという考え方を常に大事にしています。

Q：人事の仕事で一番嬉しかったことは何ですか？

いろいろな人の人生の節目に立ち会えることですね。例えば、入社式です。学生から社会人になる節目に立ち会えるということはすごく嬉しいです。高校を卒業してから入ってきた人には社内での成人式をしています。そうした場面に立ち会えるのもいいものですね。また、定年退職の時には、退職セレモニーをします。その方が社員人生を振り返ってされるお話を聞くと感動します。そうしたいろいろな人の節目、節目に立ち会えることがすごく嬉しいです。

Q：採用の仕事で一番大変だったことは何ですか？



【感想】

私は、竹中さんのお話の中でよく遊び、よく学べという言葉が一番印象に残っています。やるべき時に、やるべきことをすることが大切だと改めて知り、後悔しないようにしたいと思いました。また、取材に行くときすごく歓迎してくださり、人事の方だけでなく、北大垣工場内の多くの方にお世話になりました。見学では、機械の怖さを感じることもできる。独自に作ったものを体験し、安全への意識の高さを知りました。私は、このプログラムで、情報共有の大切さや礼儀を学びました。今回学んだことを自分の将来だけでなく、普段の生活から意識していきたいと思っています。

【取材・記事】一年 小川妙恵

他の人からは大変だと思われることがありますが、僕自身は大変だとは思ったことはなく、すごく好きでやっています。採用の仕事で難しいことは、少子高齢化の中で、ものづくりをやりたいという人を探し、その中からさらに良い人を採用することです。また、たくさん応募がある中から、高校生30人、大学生15人を選ばないといけないという大変さがあります。



Q：太平洋工業ではどのような人を求めていますか？

夢と挑戦、信頼と感謝を大事にする人を求めています。また、疑似体験を通して、仕事の苦労や大変さを感じてもらい、任された仕事を最後までやりきる責任感がない人は絶対ダメだということを伝えています。